



佐藤 恵梨子さん

東和町米川第1区・47歳（自営業）

わたしの夢や未来を聞かれると、やはり最初に頭に浮かぶのは4人の子どものことです。今年は長男が高校3年、二男が中学3年とそれぞれ進路を決める学年になります。本人次第なので親は心配することくらいしかできませんが、来年にはうれしい春を迎えたいものです。

次に二男と中学2年になる三男が、部活動で昨年より少しでも良い成績を残すことです。特に二男は卓球で中学最後となる中総体で優勝し、県大会に進出することが大きな目標となっています。このことは夫やわたしにとって、今年の大きな楽しみになりそうです。三男は入部して初めて経験したアーチェリーが、少しずつ上達して面白くなってきたところなので、良い成績を出してそれを自信につなげてほしいと思っています。小学5年生になる長女はまだまだ遊び盛りですから、けがをしないで元気に過ごしてもらうだけで十分です。

おばあちゃん、お父さん、わたしの3人の夢は、家族全員が健康でいられることです。今は商売と4人の子育てで3人ともフル回転しています。まだしばらくはこの状態が続くことになりそうですから、3人とも病気をしないで頑張っていきたい。のんびりと夢や未来を考えられるのは、何回目の亥年が巡ってきたときでしょうか。しばらくは子どもたちの成長がわたしの楽しみです。

子どもたち4人の成長が何よりの楽しみ

## 市民参加型のイベント・まちづくりに期待

津花 浩幸さん

米山町孤崎・35歳（会社員）

これから登米市がどのように発展していくか楽しみです。わたしは、子どものころから登米市の田園風景を見て育ちました。山から見るまちの景色は、まさに大地の恵みを実感します。

わたしは現在、市内の生活環境を整える仕事をしています。今、農業を取り巻く環境は厳しく、農業経営者の高齢化が進み、後継者が少なくなっているのも現実です。このような問題に対し、行政が積極的に指導・育成に取り組んでもらえたら、さらにより良い農業環境になると思います。これからは、時代を先取りした農業政策を打ち出して、日本の農業を登米市に引っ張ってほしいと思います。

昨年、市内のさまざまなイベントに参加し、いろいろな活動をしました。合併した現在、数多くのイベントがありますが、地域や文化財、自然あふれる場所、道の駅の有効利用も視野に入れ、市民と行政が一体となった参加型のイベント・まちづくりにも期待しています。これらが実現すれば、より一層観光客が増え、まちが活性化するのはないでしょうか。

昨年は痛ましい事件・事故が、連日テレビや新聞などで報道されました。今年は少しでも明るい話題が増え、平和な世界になることを願います。



及川 美江子さん

中田町十文字・35歳（自営業）

気が付けばわたしも今年で36歳。早いもので世の中では「中堅」と呼ばれる歳になり、自分が過ごしてきた年月の長さを今あらためて実感しています。わたしは夫と母の三人で写真館を営んでいます。店は近年の急激なデジタル化で、仕事の在り方が日々変化している中、その対応に追われる毎日を送っています。店には毎年、家族で撮影に来ていただいているお客さんがいます。今年はどうな写真にしようかと、わたしたち自身も楽しみにしていて、撮影のひとときを楽しんでもらいながら、「家族らしさ」を写真に収められるように努めています。

写真は生活必需品ではありません。なくても困らないものかもしれません。しかし、心のゆとりや豊かさ、楽しみといった部分とつながり、そのときを思い出し自分たちが過ごしてきた時間を振り返る大きな役割を担っていると信じています。そして一人でも多くの方々に、その楽しみを感じてもらえるお手伝いができたらいいなと思いつつ日々頑張っています。

出来上がった写真を見たときに浮かべるお客さんの笑顔がわたしたちの喜びであり、その笑顔をより多くの方々に広げていくことがわたしたちの夢でもあります。今、歩んでいる道が未来へつながる道だと信じ、今年も精一杯歩いていこうと思います。

心のゆとりや豊かさを写し出す写真で笑顔を

## 人と人をつなぐ「家」のような店を持ちたい

高橋 康広さん

南方町青島・23歳（会社員）

自分が思い描く夢は自分の店を持つことです。店にもいろいろありますが、自分は料理を作ることや人と話をするのが好きなので、居酒屋をやりたいと思っています。好きなことを仕事にしたいと思うことは、当たり前のことかも知れませんが、実現させることは簡単ではないといえます。しかし、小さいころからの夢でしたし、お客さんとの会話を通して自分が人間として成長していけると思っているので、ぜひ実現させたい。自分が生まれ育った登米市の食材を使って料理を作り、おいしいお酒、楽しい会話などで、お客さん一人一人に心から楽しかったと思ってもらえるような店にしたいと思います。

自分も月に何度か気の合った仲間と居酒屋で、お酒を飲みながらおいしい料理を食べ、何気ない会話を楽しんでいます。特に辛いことや悲しいことなどがあつたときは、相談したり話したりするだけで頑張ろうという力が出てきます。このようなときに人の温かさを感じ、人とのつながりが大切だということを実感します。

自分が目指す店は「人と人をつなぐ店」。これまで体験したこと、感じたことを生かし、店というよりもどこか懐かしい、温かみのある「家」「家庭」のような店にしたいです。そして、お客さんが疲れた体を休め、元気になってもらえればうれしいですね。

